# ゆめのね通信

～ 地域の子ども・子育て応援団 ～

No.7 ／2024(令和6)年7月25日発行
（1月、4月、7月、10月の25日発行）
児童家庭支援センター ゆめのね
横浜市保土ケ谷区和田2-2-7 メゾン横山1階
TEL 045-465-4472　発行責任者:山下 きよ子

## センター長就任のご挨拶

児童家庭支援センターゆめのね
センター長　山下 きよ子

7月から、児童家庭支援センターゆめのねの職員として、地域の「子ども・子育て応援団」として活動することになりました。前センター長の意思を引き継いで、保土ケ谷区の社会資源として、支援を必要としている子育て家庭の皆様とともに歩み、必要な支援・貢献ができるよう尽力してまいりたいと思います。

どうぞ、よろしくお願いいたします。

**横浜型児童家庭支援センター ゆめのね**

児童福祉法に基づき横浜市から認可を受け、2018年に開設した児童福祉施設です。相談員や心理担当職員などを含め、10人の職員が支援にあたります。

センター長：山下
相談員：橋間　佐藤　志賀　毛利
心理担当：川島
支援員：松下　佐々木　早川　片井

### 実施事業

#### 子育て相談事業

0～18歳までの子どもに関する相談をお受けし、必要に応じて、関連機関と協力しながら解決に向けたお手伝いをします。

#### 子育て短期支援事業

2～12歳（小学生まで）の子どもを対象とした横浜市の委託事業で、利用の必要性を区や児童相談所が判断し、必要と認められた場合に利用できる事業です。利用には登録が必要で、世帯の収入に応じた利用料が発生します。

相談室

プレイルーム

#### 地域交流事業

イベントや子育てに役立つ講座などを通し、地域の方々と交流します。

#### 里親子・ファミリーホーム等への支援

地域で生活する里親や里親宅で暮らす子ども、ファミリーホームの養育者の方からの相談をお受けしています。

## 子育て応援団長「のねさん」です

## 今月の「マルっとほどがや」

**保土ケ谷区・横浜市内で様々な活動を行う人々をゆめのね職員が取材＆紹介！　（詳しくは中面）**

代表の廣瀬さん

今回は、保土ケ谷区を飛び出し、泉区へ行ってきました！
不登校児童生徒の支援を3年前から展開している『かけはし』の代表・廣瀬さんに、“まなべる居場所”を開いた思いなどを聞きました。

## ゆめのね相談

**相談の方法**

| | |
|---|---|
| 電 話 | 電話で気軽に相談したい… |
| 訪 問 | ご自宅でゆっくり話したい… |
| 来 所 | 子どもを遊ばせながら相談したい… |

※上記以外のご相談方法をご希望の方は、お問い合わせください

●相談時間は月～金曜の平日 10～17時
（※年末年始12/29～1/3を除く）
●男性スタッフ・女性スタッフが常駐
●匿名での相談でもOK
●お子さんからの相談もお待ちしています

◆ 相談例 ◆
・子どもの発育状況が気になる…
・イライラして子どもに当たってしまう
・(子ども)学校でイヤなことがあった

## 連町フェスティバルに出店しました(地域交流事業)

6月1日（土）、保土ケ谷中学校を会場に開かれた和田・釜台地区連町フェスティバルに、ゆめのねが出店しました。輪投げを用意して子どもたちをお出迎え！約70名の方々参加してくださり、盛り上がりました♪

お子さまはもちろん、保護者、シニアの方々も楽しんでいらっしゃいました

職員手作りの輪投げ♪
色水を入れたペットボトルは「かわいい♪」と好評でした！

しんぷるだけどむずかしい！
そこがいいんだよね～

## 子育ておしゃべり力フェ

2024(令和6)年
~~4月11日(木)~~
~~6月13日(木)~~
8月8日(木)
10月10日(木)
12月12日(木)
2025(令和7)年
2月13日(木)

- 時間：10～12時
- 場所：おもちゃ文庫（ほどがや地域活動ホームゆめ）
- 対象：乳幼児・未就学児～小学３年生とその保護者
- 無料・入退室自由

おもちゃ文庫のInstagramでカフェの様子がみられるよ！

### 編集後記

一般社団法人『かけはし』を訪れると、いたるところにぬくもりを感じました。落ち着いて過ごせる部屋、屋外のようにのびのびと過ごせるスペースなど、子どもの思いが第一に考えられた居場所がそこにはありました。また、子どもに『とことん寄り添う』という廣瀬さんの思い、これまでの苦難、変わることのない情熱に触れ、多くの気づきと学びがありました。
廣瀬さん、ご協力ありがとうございました！　毛利あゆみ

No.7／2024（令和6）年7月25日発行

# マルっとほどがや

保土ケ谷区などで様々な活動をおこなう方々を
ゆめのね職員が訪問、紹介します

様々な理由で学校にいけない不登校の子どもが増えています。横浜市では令和3年度に6,616人と、5年間で約1.6倍に増加。ゆめのねでも不登校に関する相談が徐々に増えているなか、学校以外の居場所に関する興味が湧き、今回、一般社団法人『かけはし』を訪問・見学させていただきました。元教員の廣瀬貴樹さんが3年前に立ち上げた『かけはし』は、不登校児童生徒の居場所事業等を展開する一般社団法人です。昨年10月からは公民連携の教育支援センター「ハートフル西部」の事業を横浜市教育委員会より受託、運営されています。不登校児童生徒の安心できる居場所と学びの充実が大きな課題となっている今、どんな思いで『かけはし』を運営されているのか、お話を伺いました。

## 訪問させて頂いた場所

### まなべるいばしょ『かけはし』／ハートフル西部（不登校児居場所事業）

★場所　横浜市浜市泉区和泉町6095-10
★活動日　月・水・木・金曜　9：30～14：00
※木曜は、お昼まで
14：00～15：00は、学習室として利用可
★対象　小学校1年生～中学校3年生
★定員　約50名

一般社団法人 かけはし
**代表　廣瀬 貴樹さん**

廣瀬さんの愛称は、“もじゃくん”。「対等な関係で相手を知ることから、すべてが始まる」、と廣瀬さん

わたしたちが訪問しました！

佐藤　志賀　毛利

### 『かけはし』を立ち上げた経緯をおしえていただけますか？

２０２１年まで１４年間、小さいころからの夢だった教員をしていました。「毎日がドラマ」のような環境の中、ずっと気になっていたのが、落ち着いて何か取り組める状況ではない子、生きづらさを感じている子どもの存在でした。そういった子どもに寄り添いたいと日々葛藤していましたが、学校や一教師にできることの限界をだんだんと感じるようになり、自分が情けなく思えてきてしまったんです。これから子どもとどう向き合っていきたいか考え、出た答えが、「生きづらさを抱えた子どもに『とことん寄り添いたい』」でした。特に不登校の子どもは、アプローチが難しいです。「学校じゃないところに安心できる居場所を作ろう！」と思ったのが、『かけはし』立ち上げの経緯です。

### 教員を辞しての決意、大きな決断、でしたね

同じく教員をしていた妻も、私の考えを聞くうちだんだんと気持ちが傾いて、一緒に辞めました。実は教員時代から畑をやっていまして、「じゃがいもがあれば生きているよ！」という気持ちで夫婦で飛び込んじゃった感じです（笑）。あとは、教員仲間の励ましや、なにより、出会った子どもたちの存在が大きな原動力になりましたね。それまで、「子どもたちのために熱く頑張ろう！」みたいな思いで突っ走って、傷つけてしまったこともありました。ですので、「子どもの思いを優先したい」というのが、ここを運営するなかでずっと貫いている思いです。

### 「とことん寄り添う」とは具体的にはどんなことでしょうか？

ここに来る子どもたちは、何かに傷ついたり、自分を傷つけている子どもばかりです。人と会うこと自体に強い不安を抱えているので、ここでは安心して過ごすことが何より大切だと思っています。たとえ中には入れなくても、「来てくれただけでうれしいよ」「無理して入らなくていいよ」と声をかけ、絶対に無理やり引っ張らない。入ったら、何もしなくてもいいし、帰りたいときに帰ればいい。　私たちは、「その子と一緒にいる」ことに大きな価値を感じています。

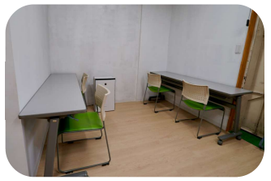
ある子は、すでに一年間学校に行っていない状態でした。スマホゲームが大好きで、昼夜逆転、食事もとらずエナジードリンクを飲むような生活のなか、かけはしに来ました。その子が安心できることが第一だったので、一旦、彼のすべてを受け止め、ゲームを一緒にやり、昼食を抜いてエナジードリンクを一緒に飲みました。学校の先生だったらできないことです。もちろん、ルールを決めたら楽ですが、ゲームやスマホがその子にとって大事なものだったので、我々は否定しませんでした。関係性を構築しながら、ゲームをする時間を決めてもらうなど、自身で決めてもらう営みを重ね、その子の自己決定が始まっていったのです。すると少しずつ彼の意思が増えていき、自転車で一緒に遠出するようになりました。体を動かすと、夜、寝られるようになり、自分でごはんも食べるようになったのです。私たちはあくまで環境の一部。どう伸びていくかは、あとはその子が決めるのだな、と実感した経験でした。

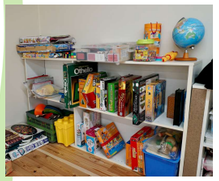
### 場面ごとにスタッフのみなさんの対応力が求められそうですね

子どもと関わると、日々、戸惑いや難しさを感じて悶々とすることもあります。ですので、支援前後のミーティングは大切にしていますね。「子どもの自己決定を大事に、とことん寄り添う」を実現するためには、ボランティアの存在が欠かせません。現在７０名の方が登録してくださっていますが、立場関係なくいろんな感情を日々共有することで、かけはしの“共通のまなざし”が作られていると考えています。

## えらべる居場所

ひろーい部屋、ちいさな部屋、外だけど中みたいな部屋…、子どもたちがその日によって過ごし方がえらべそうに思いました





段ボールで巨大スポーツカーを作る子も！

地球儀で世界の話をしたり、ボードゲームでコミュニケーションを図ったり…様々なアプローチで 社会的自立に向けて子どもの力を育んでいるそうです

## 畑での体験も 居場所のひとつ！

「畑は『生きる』そのものです」と力込める廣瀬さん。農園活動を通して 自然の恵み、命の尊さがきっと伝わる、と廣瀬さんは信じています

## 70名のボランティアが活動を支援

常勤・非常勤のスタッフのほか、ボランティアが活動を支えています

### 昨年10月からハートフル西部を受託され、さらに今年４月に常設の居場所を開設。パワーアップしていますね！

２０２１年に始めた当初、利用者は数人でしたが、昨年度は市内外から７０人ほどが通うようになりました。ハートフル西部の受託により、市内在住の児童生徒は1000円（諸経費）で利用できるようになりました（市外の児童生徒は、月5000円の会費が必要）。常設の居場所を作るにあたり、どの子も通いやすい場所がいいなと考えていました。ここは、いずみ野駅（相鉄いずみ野線）から徒歩５分とアクセスが非常によいのが強みです。また、常設にできたことで午後も活動できるようになりましたし、オープンスペース・個室・勉強部屋・外の人工芝など、一つの居場所で安心して過ごせる場所を選べるようにもなりました。

### 今後の目標はありますか？

教育の世界では社会的自立といいますが、すべての子が自分らしく、自分の道を切り拓けるような、そんな風に子どもが育つようなまちを作りたいですね。世の中にはいろんな苦しさを感じている子がいて、子どもたちだけの力で切り拓くには難しいことがどうしてもあります。一方で、子どもに携わる学校や児相、支援者たちはみんな、限界ぎりぎりのなかで子どもたちを支援しています。いろんな子どもたちや支える人たちとの『かけはし』となって、“つながり合える、支え合えるまち”を創っていきたいです。